

# 【訂正版】令和5年度学校評価アンケート集計結果（課題と今後の取り組み）

3学期にご協力をいただいた学校評価アンケートの結果をご報告いたします。

学校評価は、年度初めに設定した教育目標やそれを実現させるための取組などについて成果と課題を確認し、今後の改善策を含めて次年度の教育課程の編成に生かすために学校が行う自己評価です。子どもたちの回答や保護者のみなさまからいただいた回答と教職員の回答を合わせ、この評価結果に基づいて学校運営や指導方法等の改善につなげていきたいと考えています。

【アンケートの結果】（有効回答数 児童：179 保護者：47 教職員：14）

- ① 肯定的回答（「思う」「どちらかというと思う」）の割合を到達度として表しました。  
 ② また、設問ごとの回答を次のように点数化し、平均値を算出します。

思う：3点、どちらかというと思う：2点、どちらかというと思わない：1点、思わない：0点

- ③ 平均値によって、A・B・Cとして評価を集約しました。

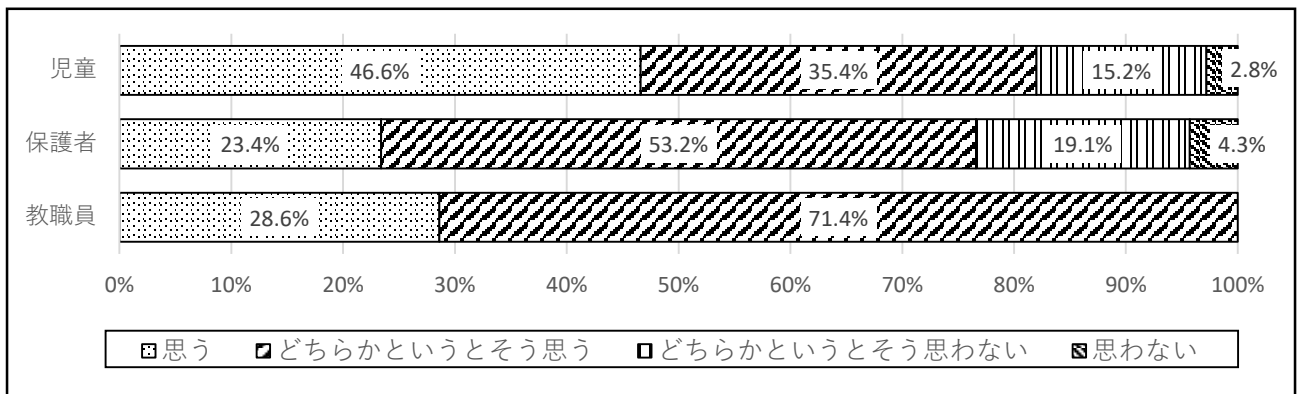
A・・・2.50～3.00 本校の教育活動に対する満足度が高いものとして、次年度に引き継ぐ  
 B・・・2.00～2.49 満足度は高いが、一部に課題がある  
 C・・・0.00～1.99 次年度の課題として改善を図る必要がある。

## 【設問1】

【児童】 だれにでも自分からあいさつしていますか。

【保護者】 お子さんは自分からあいさつしていますか。

【教職員】 児童が自分からあいさつできるよう、具体的に指導・支援していますか。



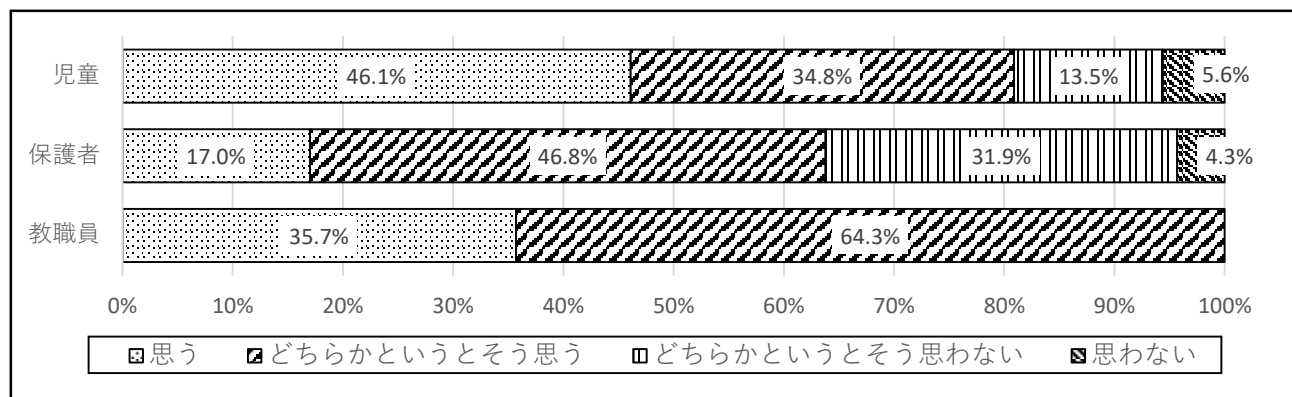
保護者の評価がCとなりましたが、児童と教職員の達成度から見ると学校や地域ではよく挨拶できているのではないかと考えています。「自分から」という条件が、保護者の方の評価を厳しくしているのかもしれませんが。学校では、あいさつについて、月目標に掲げたり、各学級で指導したりしながら年間を通して児童に意識づけをしてきました。児童会でも、あいさつ運動を展開し主体的に活動しています。

あいさつをしましよと指導する一方で、見知らぬ人に対してはまず警戒という、相対する姿勢を児童に求めているのが現状で難しい一面もありますが、あいさつを交わすことで、人と人とのつながりを感じることができるのも、あいさつの良いところです。あいさつをする・しないは、個人が自由に決めていいことです。また、あいさつをしなければならぬと強く求めることも今の時代にはなじまないかもしれません。しかし、あいさつを交わすことで人と人がつながり、そのつながりを広げていくことは、子どもたちにとって地域とのきずなを深めるいいチャンスとなり、地域のきずなは、子どもたちの安全を高める上でとても大切なものだと考えています。今後も、家庭や学校、地域の顔見知りの方へのあいさつについて引き続き指導をするとともに、PTAやふるさと和田振興会と連携した地域ぐるみの取組も含め検討していきます。

	児童	保護者	教職員
達成度	82.0	76.6	100
昨年度比	-3.2	-6.6	+7.1
スコア値	2.26	1.96	2.29
評価	<b>B</b>	<b>C</b>	<b>B</b>

## 【設問2】

- [児童] 早寝早起き、食事、宿題、次の日の用意がきちんとできていますか。  
 [保護者] お子さんは、望ましい基本的生活習慣が身についていますか。  
 [教職員] いじめ・生活アンケートなど（早寝早起き食事、テレビ・ゲーム・スマホの使用時間など）の結果をいかして指導・支援をしていますか。

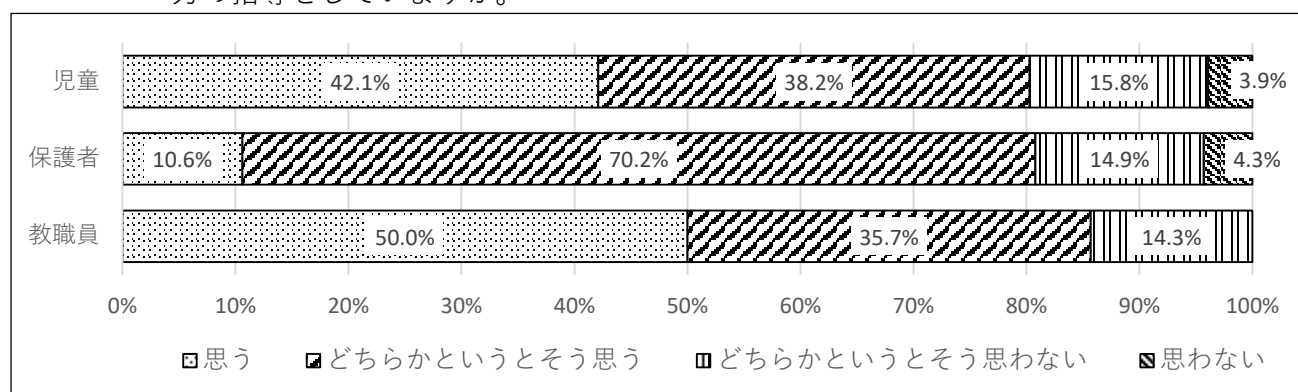


11月に行ったインターネットの使用に関するアンケートでは、自分の携帯・スマホを持っていると答えた児童が1～3年生で25.8%、4～6年生で42.0%でした。また、高学年を対象に、学校から帰ってから一番長くするのは何かということを探ったところ、テレビと回答した児童が26.0%、ネット（SNS、動画、ゲーム等）と回答した児童は、その2倍の53%という結果になりました。その他にも、ネットに夢中になっていると感じることがあると回答した児童が71.7%、ネットの時間をもっと増やしたいと思っている児童が45.4%という結果になっています。ネットの使用時間が長くなると睡眠時間が短くなり、早寝早起き、食事や家庭学習など基本的な生活習慣の確立に大きく影響することがあります。今のデジタル社会で子どもたちからネットを単に遠ざけることは現実的ではありません。子どもたちがネットと上手に付き合っていくために、まずは子どもと一緒にルールを作り、それを守ることが大切です。基本的な生活習慣を身につけるために、ご家庭でも取組をお願いします。

	児童	保護者	教職員
達成度	80.9	63.8	100
昨年度比	-2.5	-1.4	+7.2
スコア値	2.12	1.77	2.36
評価	B	C	B

## 【設問3】

- [児童] 交通のきまりを守り、地区の友だちと協力しながら登下校をしていますか。  
 [保護者] 登下校時の安全確保など、お子さんに声をかけ、学校並びに地域の方との連携に積極的に取り組まれていますか。  
 [教職員] 家庭・地域と連携し、登下校時など児童の安全を確保するため、交通のきまりや並び方の指導をしていますか。

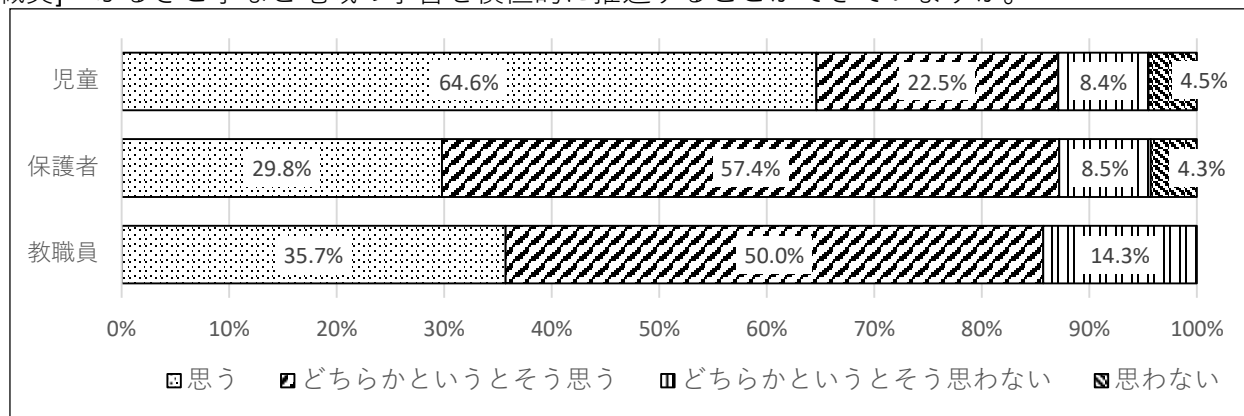


見守り隊やPTAの交通立ち当番、警察や地域の方のご協力を得て、子どもたちが安心して登下校できる体制を整えていただいています。学校では、週に2回、下校時に青パトによる巡回パトロールや各学期に2回の下校指導を実施したり、子どもたちが安全な登下校の仕方について振り返る「地域の広場」を各学期に2回実施しています。通学路のすべてを大人の目で見守ることはできません。学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たし互いに連携しながら持続可能な方法で子どもたちが安全に登下校できるよう体制を整えていくことが必要だと考えています。

	児童	保護者	教職員
達成度	80.3	80.8	85.7
昨年度比	-1.4	-0.1	-14.3
スコア値	2.19	1.87	2.36
評価	B	C	B

### 【設問 4】

- [児童] 地域のことや、地域の人と一緒に学習したり、活動したりすることは、楽しいですか。  
 [保護者] お子さんが地域で学習したり地域の人から話を聞いたりしていることをご存じですか。  
 [教職員] ふるさと学など地域の学習を積極的に推進することができていますか。

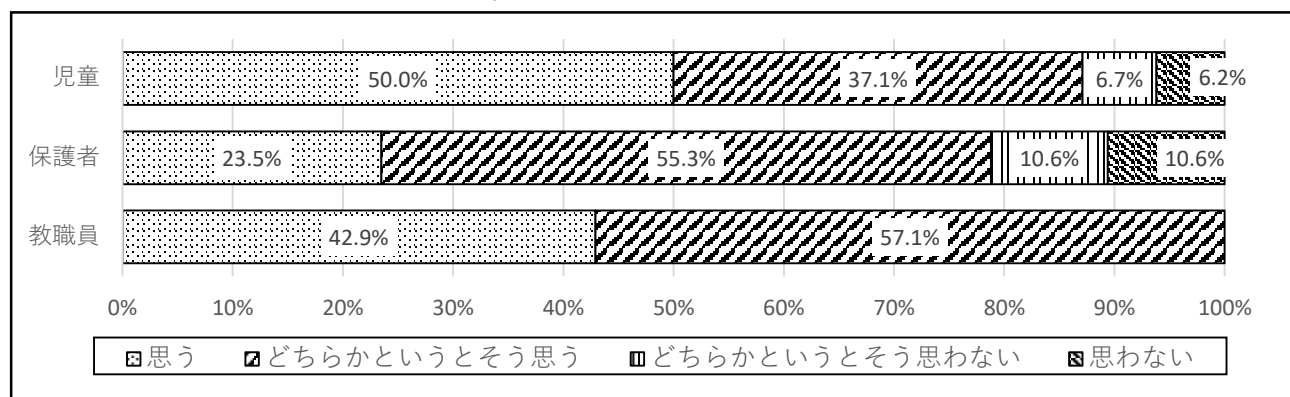


昨年度よりわずかにマイナスとなりましたが、依然として児童のスコア値が高いことから、地域学習が子どもたちにとって「楽しい学習」になっていることがうかがえます。本年度招聘した地域のゲストティーチャーは延べ92名、昔遊びや地域の歴史・産業の学習、漢方の里まつりへの参加など、体験を通してふるさと学習を進めることができました。また、3学期には、4年生がキャリア教育の一環として校区の事業所にご協力をいただき、2日間の「ミニトライ・やる」を実施しました。地域の大人の方に認められたり、ほめられたりすることで、子どもたちは自信をつけ、自己肯定感を高めることにつながりました。今後も学校、家庭、地域の連携を深めながら地域とともにある学校づくりをめざし、地域の教育力と手を携えながら子どもたちの学びがより深くより豊かになるよう努めていきます。

	児童	保護者	教職員
達成度	87.1	87.2	85.7
昨年度比	-5.7	+8.6	±0.0
スコア値	2.47	2.13	2.21
評価	B	B	B

### 【設問 5】

- [児童] 『めあて』をもって、最後まであきらめずに学校での学習や家庭学習に取り組んでいますか。  
 [保護者] お子さんは家庭学習の習慣が身についていますか。  
 [教職員] 児童が主体的に学校や家庭で学習に取り組めるよう、学習指導の工夫・改善に取り組むことができていますか。



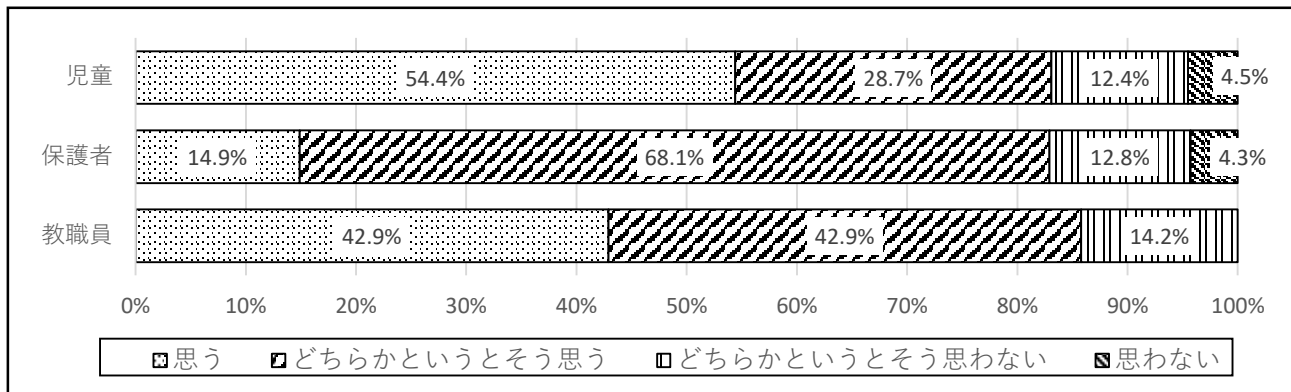
児童・教職員の回答と保護者との回答に差が生じており、スコア値で比較した場合の差が大きいことが一つの課題であると捉えています。家庭学習には、学習習慣を定着させたり、その日の学習内容を定着させたり、自ら課題を見つけて学習する態度を養ったりするなど、様々なねらいがあります。家庭学習の目的や意義を明確にしたうえで、家庭学習の内容や量、方法など再度検討する必要があると考えています。

子どもたちが主体的に家庭学習に進んで取り組むことができるよう支援するとともに、保護者の方への説明をていねいに行い、家庭学習における評価の方法や具体的な支援の仕方などをお伝えしていきたいと考えています。

	児童	保護者	教職員
達成度	87.1	78.8	100
昨年度比	-3.2	-2.1	+7.1
スコア値	2.31	1.91	2.43
評価	B	C	B

### 【設問 6】

- [児童] 勉強が良く分かるように、友だちと話し合ったり、先生にたずねたりできていますか。  
 [保護者] お子さんは学習内容を理解されていますか。  
 [教職員] 「わかった」「できた」に向けて、教師や友だちの話を聞いたり、自分の考えをはなしたり、互いに話し合ったりする授業づくりに取り組むことができますか。

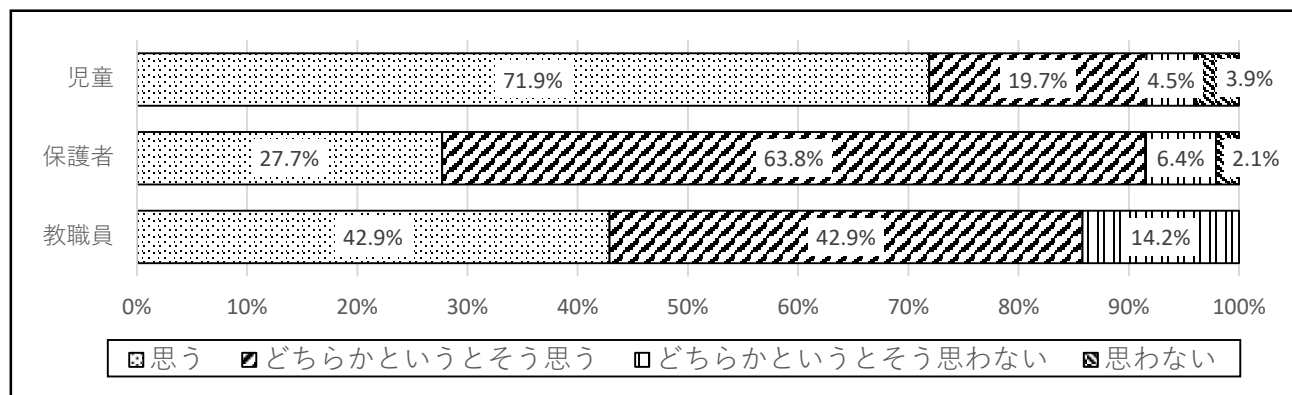


本年度は「対話的な学びを通して自己を見つめ深い学びを目指す道徳教育」を研究テーマに授業研究を進め、ペアトークやグループトークで話し合ったり考えたりする場を積極的に取り入れ、主体的に学びに向かうことができるよう取組を進めてきました。この学びが他の教科にも生かされ、自分の考えをわかりやすく説明することができるようになったり、友達の意見と比較しながら自分の考えをブラッシュアップしたりすることができようになってきたと実感しています。保護者と教職員との評価のギャップが大きいことを重く受け止め、この成果を大切にしつつ、朝の学習なども活用しながら、基礎学力を確実に定着させる取組との両輪で、今後も「わかる」「楽しい」「参加したい」をめざした授業改善に取り組みます。また、一人一人の学習状況の把握に努め、主体的に学びに向かうことができるよう、これからも学習指導の充実に取り組めます。

	児童	保護者	教職員
達成度	83.1	83.0	85.8
昨年度比	-2.6	-0.1	-7.1
スコア値	2.33	1.94	2.60
評価	B	C	A

### 【設問 7】

- [児童] 学習の中でタブレットパソコンなどのICT機器を使うのは楽しいですか。  
 [保護者] 学習の中でタブレットパソコンなどのICT機器を使うことは、学習意欲の向上や理解につながるとお思いますか。  
 [教職員] 学習の中で効果的にタブレットパソコンなどのICT機器を活用することができますか。

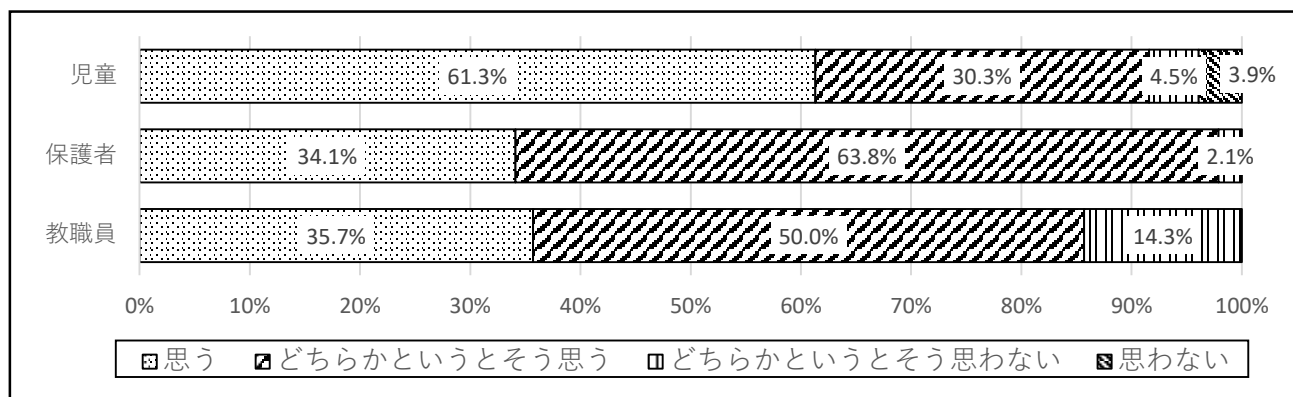


一人一台のタブレット端末が導入されて4年目を迎えました。授業では、カメラや動画機能を活用して観察記録をつけたり、互いの情報を交換したり、簡単なプログラミングの学習をしたり、インターネットを使って調べ学習をしたりしています。また、高学年では、クラウドを利用して課題の配信や提出、ファイルを共有して協働作業を行うなど、ICTスキルや情報モラルを身につけ、情報を安全かつ適切に活用する能力を高める取組も進めています。一人に一台のタブレット端末が整備されたことにより、コンピュータは特別なものではなく、鉛筆やノートと同じ、多様な表現方法のための道具の一つとなりました。ネットワークにつながることによって、授業における活用の幅はますます広がりますが、教師の指示ではなく子どもが自分で判断して必要に応じて活用できる姿を目指して取組を進めます。

	児童	保護者	教職員
達成度	91.6	91.5	85.8
昨年度比	+0.5	+3.9	-7.0
スコア値	2.60	2.17	2.29
評価	A	B	B

### 【設問 8】

- [児童] 学習や生活の中で友だちと協力できていますか。  
 [保護者] お子さんは、遊びや生活の中で兄弟姉妹や友だちと協力できていますか。  
 [教職員] 学校や学級の中で、遊びや係の仕事、委員会活動を通して、協力する心が育つように、指導・支援できていますか。

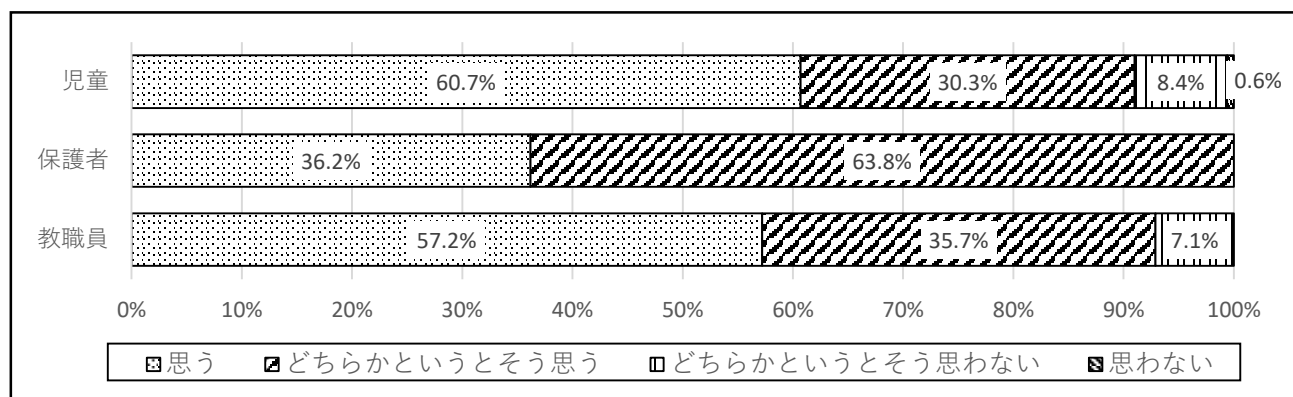


係活動や委員会活動は、学級や学校生活がより楽しくより充実したものになるよう学校内の仕事を分担し、課題に自治的に取り組んでいくための活動です。この活動においては、自主性や社会性を育んだり、集団における役割意識を高めたり、望ましい人間関係を築いたり、自ら問題を解決する力をつけることを主な目的として取り組んでいます。児童のスコア値が高いということが示しているとおおり、自分の活動がみんなのためになっているという満足感や達成感を味わい、そのことが次の活動への意欲につながっていると感じています。今後も児童が自分のよさに気づけるよう相互評価を工夫したり、教師が適切な声かけをしたりしながら、自主的な態度や活動意欲を育てることができるよう支援していきます。

	児童	保護者	教職員
達成度	91.6	97.9	85.7
昨年度比	-1.1	+6.9	-14.3
スコア値	2.49	2.32	2.21
評価	B	B	B

### 【設問 9】

- [児童] 友だちや自分を大切にしている行動したり、話をしたりできていますか。  
 [保護者] お子さんは、優しさや思いやりを持って、自分や兄弟姉妹や友だちなどを大切にできていますか。  
 [教職員] 児童が優しさや思いやりを持ち、自分や兄弟姉妹、友だちなどを大切にする心が育つように、指導・支援できていますか。



縦割り班活動には、協力することの大切さを理解し、お互いに思いやることのできるようになったり、上級生の思いやりのある行動や優しい声掛けを通して下級生が他者との接し方を学んだりできるというメリットがあります。本校では、1年生から6年生までの縦割り班を編成し、年間を通して、遠足や児童集会、運動会などの行事をはじめ、掃除や登校班など多くの場面で縦割り班活動を取り入れています。これらの活動をとおして、高学年は高学年としての自覚や自信を持って活動し、さまざまな異学年交流活動によって人間関係を広めたり深めたりする中で、どの子もよさを生かし、自己有用感を高めることができる場となり、本校の教育活動の特色ともなっています。今後もこの活動を充実させ、やさしさや思いやりで満ちた児童の育成に努めていきます。

	児童	保護者	教職員
達成度	91.0	100	92.9
昨年度比	-2.4	+7.9	-7.1
スコア値	2.51	2.36	2.50
評価	A	B	A